

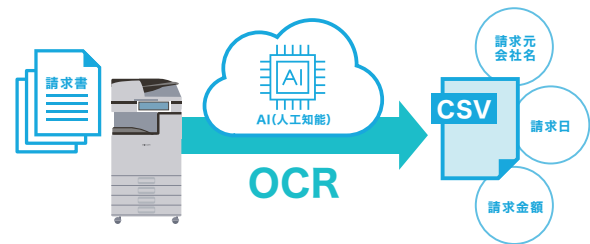
RICOH Cloud OCR for 請求書

社内導入事例

リコージャパン株式会社
経営企画本部 業務センター
発注売上業務室

AI(人工知能)が請求書処理作業の負荷を大幅軽減、 「働き方改革」の第一歩へ。

「RICOH Cloud OCR for 請求書」は、紙やPDFの請求書を文字データ化するクラウド型AI帳票認識OCRソリューションです。リコー独自の帳票解析技術と画像処理技術を搭載したAIが、請求書に記載された請求金額、請求日、請求元名称などの情報を自動認識して一括データ化します。データ化した情報は、CSVファイルにて会計システムや銀行支払いシステムと連携できます。今回は2019年5月に「RICOH Cloud OCR for 請求書」を導入した、リコー日本の経営企画本部 業務センター 発注売上業務室において、導入の背景や導入の効果、今後の展望について聞きました。



困りごと

- 1 毎月の請求書枚数が約3,500枚。基幹システムへの入力や内容チェックが煩雑で時間もかかっていた。
- 2 月末月初に請求書業務が集中するため、請求書の確認作業も多く、モレやミスが発生していた。
- 3 「紙」の情報を元に行なうので、事務所から離れられない。

解決

- 1 請求書の記載情報をAIで自動抽出し、データ化。入力にかかる手間と時間を大幅に削減できた。
- 2 データ化した請求書情報をRPA連携することで、請求書業務を自動化でき、モレやミスがなくなった。
- 3 デジタル化によりテレワークへの取り組みも検討可能となった。

リコージャパン株式会社 経営企画本部 業務センター 発注売上業務室

リコージャパン株式会社
発注売上業務室 室長

宮澤 公一

リコージャパン株式会社
発注売上業務室 他社発注グループ

鈴木 紀子

請求書の処理作業が劇的に変化。 AI(人工知能)事前学習の効果もあり、 月末の残業がほとんどなくなりました。

導入の背景

これまでは1ヵ月で、
約3,500件もの請求書を処理。

- はじめに、発注売上業務室の概要や、請求書処理の仕事の流れなどを教えてください。

宮澤 「発注売上業務室はリコージャパンのバックオフィスとして、仕入先様の商品・サービスの発注から仕入処理業務までを行なっています。

ここには全国の仕入先様から、郵送やファクス、メール添付のPDFの請求書が1ヵ月に約3,500件ほど送られて来ます。それらの請求書をすべて印刷し、支社ごとに仕分けし、確認・処理・案件を特定し、紙を見ながら紐付けをします。

でも、どうしても転記ミスが起こるので、それを防ぐためのチェックを何重にもすることを繰り返しています。最終的には仕入れ処理(データ入力)する人が各項目をチェックするのですが、請求書のフォームが各仕入先様で違うので、たいへん気を遣う作業です。

また、紙の請求書の記載情報をもとに作業するため、事務所から離れられないこともたいへんでした。“紙の運用”ということが、業務上の最大のネックだったと言えるでしょう。」

作業が集中する月末は、
ほとんど残業する毎日。

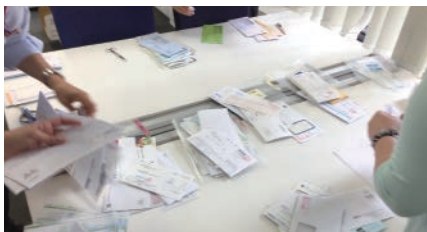
- 請求書が1ヵ月あたり約3,500件とのことでしたが、それは平均的に到着するのですか？

鈴木 「いえ、やはりどうしても月末に集中しますが、この膨大な作業を、月末はほとんど毎日残業しながらやっていました。

請求書では、請求金額(税抜/税込み)や請求日付はもちろんですが、担当支社番号、仕入先様番号、各案件番号も、指定の場所に正確に入力しなければなりません。さらに営業部門からは売上の集計が一刻も早く欲しいので、「早く仕入処理してくれ」という電話も頻繁にかかってきます。

いちばん忙しいのは、毎月20日頃からですね。昼食を食べないでやらないと終わらない。終業後にプライベートな予定などとても入れられない。」

宮澤 「スタッフから「月末の夜にコンサートに行きたい」と言われても、それはちょっと…という感じでした。」



仕入先様から毎日郵送・ファクスされてくる、紙の請求書を仕分けしていました。

導入の効果

導入から3ヵ月経ち、
月末でも予定に入れられるように。

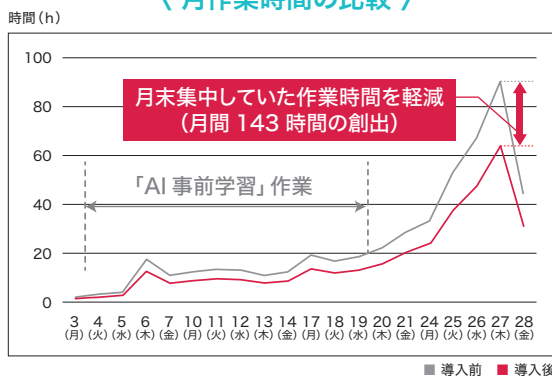
- 「RICOH Cloud OCR for 請求書」を導入して3ヵ月くらい経ちましたが、仕事の状況は変わりましたか？

鈴木 「ハイ、月末でも終業後にプライベートな予定に入れられるようになりました！複合機に請求書をスキャンするだけで、請求金額・請求日・請求元名称・請求番号などを一括してデータ化してくれるので、入力作業が本当にラクになりました。導入から3ヵ月過ぎたことへの“慣れ”もあると思いますが、いまとても助かっています。

従来は作業時間の目処が立たないことがありましたが、「RICOH Cloud OCR for 請求書」を導入してからは、仮に処理が残っていても完了時間の想定がつくので、とても安心感が大きくなりました。」

宮澤 「最初はいろいろな戸惑いもありました。でも成果が出始めたら、全員が「OCR、OCR」となっていました。現在では「RICOH Cloud OCR for 請求書」がないのは考えられないですね。AIによる帳票の自動認識の学習効果が出てきたら、もっと精度が上がっていると思います。」

〈月作業時間の比較〉



複合機に請求書を読み込ませるだけで、情報を一括してデータ化します。

今後の展望

AIの事前学習を行うことで、その後の作業がスムーズに。

●業務についての今後の展望や、構想などがありましたら教えてください。

鈴木「私たちは月末は多忙ですが、月初・月中の手の空いた時間を活かして、AIの読み取り精度を高める事前学習を行ないました。3回ほど様々な様式の請求書を学習補正することで、約95%近い正読率を得ることに成功しました。」

宮澤「現在、女性スタッフは約7割で、このうち4名が子育てしながら働いています。お子さんの都合で出勤できない時など、これからは「RICOH Cloud OCR for 請求書」を活用すれば、自宅で作業できるようになります。

来年の東京オリンピック開催の際も、都内の交通渋滞を避け、自宅で作業できるのはラクです。こういう部門はやはり女性が多いので、家事や子育ては避けて通れない問題ですから。

請求書処理の現場は、どれも同じような課題や悩みを抱えていると思いますが、「RICOH Cloud OCR for 請求書」によるデジタル化と、CSVデータのやりとりがもっと一般的になれば、経理関連の仕事は劇的に変わってゆくと思います。その先にデジタルオフィスやテレワーク、「働き方改革」への取り組みがあると思いますが、それに向けた第一歩という点で、「RICOH Cloud OCR for 請求書」の導入はたいへん大きな意味があると思います。」

“OCRする/OCRしない”のハイブリッド工程で効率化。

●運用上で改善した点、また新しいやり方を工夫した点などはありますか？

鈴木「請求書を読み込む場合、紙が曲がっていると読み取り精度も落ちてしまいます。請求書は折られてる場合が多いですから。サイズがまちまちなのも困ります。

あと小さいサイズの伝票とか、手書きのものとか、カーボン複写のものとか。それら複合機のADFに入らないものやOCRでは読み取りにくいものは、「イレギュラーなもの」として従来通りの手入力にすることにしました。

あと内容的に「イレギュラーなもの」と言うと、例えば、1枚の請求書に異なる案件の金額が複数記載されているものです。他には、週ごとに区切られているもの、担当者ごとになっているものなど、いろいろあります。」

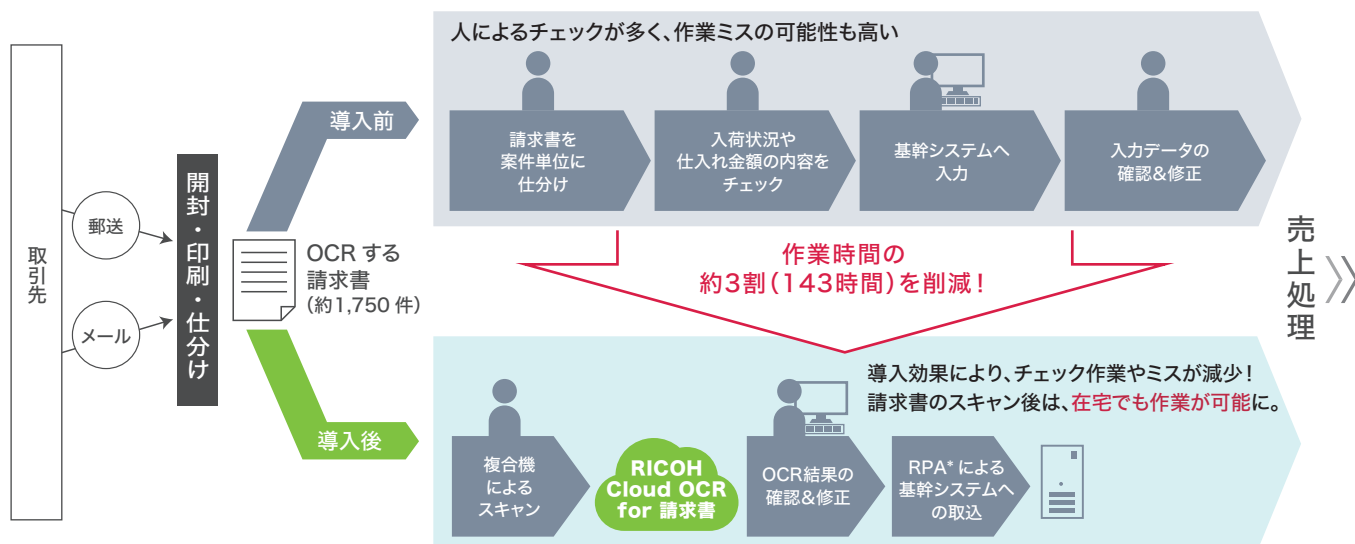
宮澤「これは「RICOH Cloud OCR for 請求書」の読み取り精度の問題ではなく、請求書管理のシステム上の問題ですね。最初は「イレギュラーなもの」をOCRでどう処理しようかと悩みました。しかし複雑なものは時間をかけても仕方ないので、それは従来のやり方で処理することにしました。

そこに時間を費やすのではなく、もっと生産的なことに時間を使おうと。この“OCRする/OCRしない”というハイブリッドな工程にしたことで、作業がとても効率的になりました。」



「RICOH Cloud OCR for 請求書」を使い、内容を確認しています。

「RICOH Cloud OCR for 請求書」とRPAを導入することで、月末の作業時間を大幅削減



* RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション): 従来の基幹システムへ入力作業を、ソフトウェアに組み込まれたロボットがルールに従って代行する。

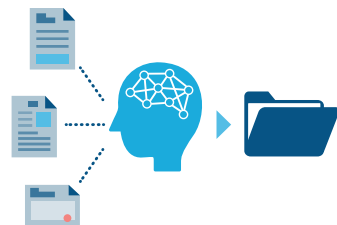
RICOH Cloud OCR for 請求書

AI(人工知能)+OCRで請求書の入力処理業務を大きく改善!

カンタン操作で請求書情報をデータ化する、リコーのクラウド型OCRソリューション

請求書の記載情報をAIで自動抽出

請求書のフォーマットは企業によって千差万別。RICOH Cloud OCR for 請求書のAI技術は、請求書のフォーマットが変わっても、請求書に記載された情報を自動的に抽出します。



クラウド型サービスなので低コスト

月々15,000円(消費税別)から利用可能。クラウド型サービスなので、大きな初期投資は不要。いつでも始めやすく、コストを抑えた運用が可能です。



記載情報のデータ化でテレワークにも対応

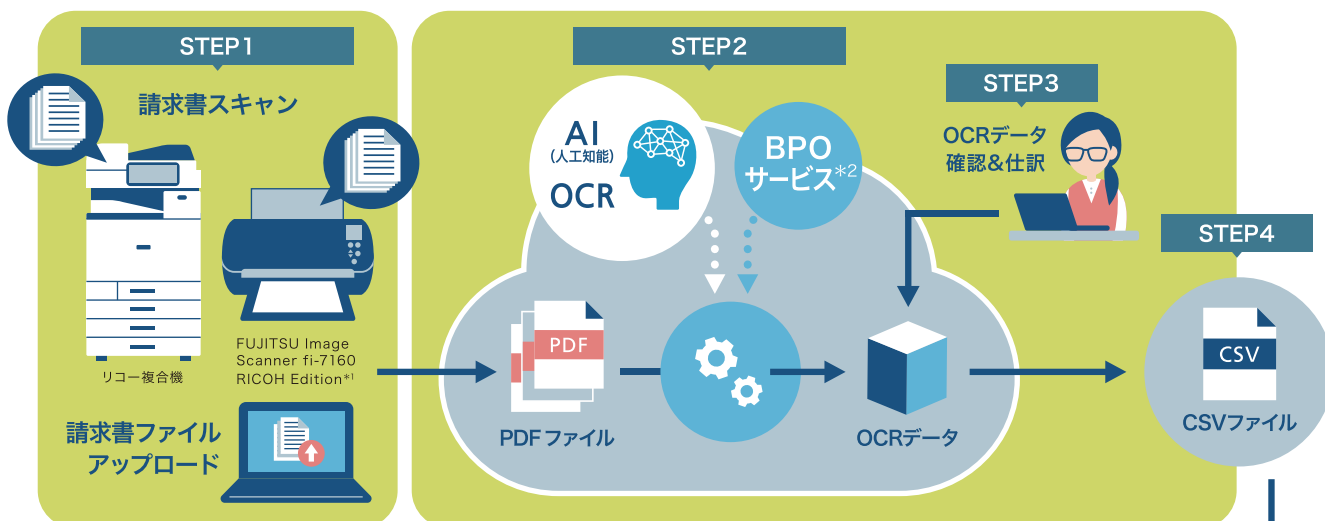
請求書・納品書をスキャンし、データ化された情報はオンラインでアクセスできます。OCR結果の確認や修正、後方システムへの連携も勤務場所に縛られることなく対応が可能です。

安心のサポート体制

専任のサポートスタッフが運用上のお困りごとやお問い合わせに対応するので、安心してご利用いただけます。

「人の目」によるBPOサービス

深刻化する人手不足を解消するためにBPOサービス*を加えたラインナップもご用意しています。AI(人工知能)による請求書処理に加え、人の目で確認/修正を実施。OCR処理したデータの精度をより一層高めます。



*1 FUJITSU Image Scanner fi-7160 RICOH Editionから自動的にアップロードするには、パソコンに「RICOHクラウド ファイルアップローダー」を設定しておく必要があります。

STEP1 紙やPDFの請求書を「RICOH Cloud OCR for 請求書」にアップロード

STEP2 アップロードした請求書は、AIが自動認識し一括データ化

STEP3 OCRした結果の確認、修正および確定処理を実行

STEP4 確定したデータはCSVファイルに出力。会計システムなどの後方処理へ連携

これまで請求書の内容を確認しながら手作業で行っていた、入力業務の手間や時間を大幅に削減できます。

* BPOサービス(ビジネス・プロセス・アウトソーシング・サービス): OCR結果の確認・修正をリコーがサポートするアウトソーシングサービスです。

※本事例カタログ内の説明画面と実際の画面の色とは、印刷の関係で多少異なる場合があります。 ※ 詳しい商品・サービス等の内容については、販売担当者にご確認ください。
※Adobe PDFは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
※その他の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

RICOH
imagine. change.

リコー・ジャパン株式会社
東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル
〒105-8503

<http://www.ricoh.co.jp>

●お問い合わせ・ご用命は・・・